



人口減少時代における 地域の自治と連携の力

～歴史と文化の“まほろば” 奈良で考えよう

全国自治体政策研究交流会議・自治体学会 奈良大会

大会参加・情報交換会

宿泊・エクスカーション等のご案内

2015. 8/21 (金)～8/23 (日)

第31回全国自治体政策研究交流会議奈良大会

会場／奈良春日野国際フォーラム 麓 ～I・RA・KA～
(奈良公園内)

主催／第31回全国自治体政策研究交流会議

奈良大会実行委員会

(奈良県・奈良市・公益財団法人奈良県市町村
振興協会・公立大学法人奈良県立大学)

第29回自治体学会奈良大会

会場／なら100年会館

はぐくみセンター

(奈良市保健所・教育総合センター)

主催／自治体学会

人口減少時代における地域の自治と連携の力 ～歴史と文化の“まほろば” 奈良で考えよう～

第31回全国自治体政策研究交流会議奈良大会

》ごあいさつ

自治体学会の会員の皆様をはじめ、全国津々浦々から多くの方々をお迎えして奈良で31回目の大会を開催しますことを、大変光栄に思います。

奈良は約1300年前に首都となった歴史・文化のあるまちです。当時はシルクロードの終着地として、中国や朝鮮半島との交流が盛んな、国際色豊かな都市として栄えました。

奈良県は県土の約77%が森林に覆われ、可住地面積が全国で1番狭い地勢の中で、三大都市圏にあたる地域から過疎地域まで、日本の縮図のように多様な地域があります。

このような歴史・文化のある多様な奈良で皆様が暮らしている地域の課題を持ち寄り、「人口減少時代における地域の自治と連携の力～歴史と文化の“まほろば” 奈良で考えよう～」を大会テーマに、大いに語り合うことを楽しみにしています。さらに、議論を通じて交流し理解し合える場となることを期待しています。

また、奈良へお越しになる皆様には、奈良の歴史・文化だけでなく、自然も体感し、将来の財産となる素晴らしい機会になることを祈念しております。

皆様のご来県を心よりお待ちしております。

第31回全国自治体政策研究交流会議奈良大会実行委員会委員長

(奈良県副知事(奈良県地域振興部長事務取扱) 前田 努)

第29回自治体学会奈良大会

》ごあいさつ

今日、地方自治体が置かれている環境はいよいよ厳しさを増しています。超高齢化、少子化の進行と相まって、多くの自治体が財政縮小と職員数の削減を余儀なくされています。また、恐らく後生の識者が日本の大転換期であった、と記すのではないと思われるほどの急速な変化が、日本社会の各分野で進行しています。

その間、地方自治の主たる課題は、団体自治における行財政改革と地方議会改革であると一般的に受け止められてきました。たしかに、これまでの自治体行財政改革は、自治体の行政文化にさまざまなインパクトを与え続けてきたといえるでしょう。一方の議会改革も、議会基本条例を制定し、主体的な改革に踏み切る自治体議会が増えてきたことにその趨勢が示されています。その反面で、地方政治においてエモーショナルな現状否定の傾向や、ポピュリズムが台頭してきていることも見逃せません。

地方自治の危機に向けた視点は、地方自治の二本柱である団体自治における危機克服だけではなく、もう一つの柱である「住民自治」にも視点が向けられなくてはなりません。団体自治の新たな改革の方向性を見定めることとあわせて、住民自治の実体的な把握、見直し、その再生と活性化が多くの自治体の重要課題となっています。地域社会(コミュニティ)の郡部における物理的な崩壊、都市部における文化的な崩壊が進行しており、同じく社会的関係資本としてのNPOも、さまざまな壁に直面しています。

この奈良大会では、「人口減少時代における地域の自治と連携の力～歴史と文化の“まほろば” 奈良で考えよう～」を大会テーマとしています。住民自治の再生・活性化に向けた各地の取り組みを学び、また、地域住民と行政との「協働」のあり方に向けて、大胆で新たな視点を切り開きたい、と願って企画されました。そこでは、団体自治としての計画行政のあり方、都道府県と市町村との連携もまた、大きな変革が迫られているという認識があります。

この大会で、多くの市民、議員、自治体職員、研究者が意見交換し、交流することによって、次の時代の展望が切り開かれることを願ってやみません。自治体学会は、常にそのような人びとに刺激と勇気を与えてきました。皆さん、大いに議論し、語り合いましょう。

自治体学会 代表運営委員

中川 幾郎 中島 興世 西村 幸夫